

22 世紀八幡ルネッサンス運動 (略称: 八幡ルネ) 企画作業チームニュース

ひろば

■発行: 22 世紀八幡ルネッサンス運動
企画作業チーム ひろば編集部

■事務所: 八幡市八幡高畑 10-76
TEL/FAX075-981-6505
090-3710-4842

■橋本連絡所: 八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488

■男山連絡所: 八幡市男山指月1-12 080-3780-6140

■八幡連絡所: 八幡市八幡土井135 竹島文化2F13号
080-3775-8133

■振込口座: 京都中央信用金庫八幡支店
普通 5243582
22 世紀八幡ルネッサンス運動

目的

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。

橋本陣屋跡の歴史的意義と保存

橋本陣屋跡を考える会 足立昌治

I. 2024 年秋の石垣の発見以前

① 八幡市の発掘調査の経緯
橋本陣屋跡の発掘調査は、2013 年に市道建設に伴う橋本中ノ町の発掘調査の延長で始められた。以後、4 回に及ぶ調査が行われ、2024 年秋に古文書の絵図(農民がスケッチしたもの)にはない場所から石垣が出土した。古文書というのは、橋本北ノ町の山田家に所蔵され、八幡市に寄託されている「山田家文書」である。

② 2024 年の石垣発見以前の橋本陣屋の位置づけ
3 回の調査では、遺跡の上に津田電線(現久御山町)や八幡紡績の工場などが建っていたため、橋本陣屋跡の遺跡は破壊されたものと考えられていた。

II. 2024 年秋の石垣発見から 2026 年 3 月 14 日の講演会に至る経過

① 2024 年の石垣発見の重み
石垣を支える「胴木」を敷いた本格的な石積み(布積み)という。今年 2 月 28 日に現地見学会があった高槻市の梶原台場と同じ構築方法であった。「山田家文書」からは想像できない石垣であり、「堀」の跡があり、軍事目的であることがうかがえる。

② 「橋本陣屋跡を考える会」の発足とめざすもの
2019 年、マンション建設の計画が明らかになった。45メートル、15階建ての計画で、都市計画の変更が必要になった。2020 年、八幡市はマン

ション建設予定地に限り、都市計画を変更し、京阪電鉄不動産が企画したマンション建設が可能になった。(そのうち、30メートル、10階建てに計画は変更された)。
マンションが建設されれば、遺跡は破壊される。案内板一つでは、幕末の重要な遺跡を後世に伝えることはできない。しかし、いきなり反対ではなく、より多くの市民に遺跡の存在と歴史的意義を知っていただく活動を通じて、保存の世論を広げようということでした。

具体的には、2025 年 5 月に京阪電鉄不動産が開いた説明会・講演会で講師をつとめられた、京都橋大学准教授の後藤敦史先生に、もう一度遺跡の説明と、研究の進展について話していただくことになった。

③ 3・14 後藤講演会で明らかになったこと
1. 松江藩が建設した可能性が高い。新築の陣屋に入ったのは、松江藩が最初と考えられる。
2. 外国軍隊が京都に攻めのぼるかもしれないという漠然とした心配ではなく、本当に外国との戦争の危機が迫っていた。それは、通商条約を天皇が認めないのなら日本を焦土と化してもかまわないという国(イギリス)もあつたことである。

④ 橋本陣屋跡について今何をすべきか
幕末の朝廷と幕府と諸藩の政治的な活動の産物であり、鳥羽伏見の戦いの最後の激戦地になった橋本陣屋跡を史跡に指定し、多くの人が遺跡を見ることができるよう保存すること。そのため、橋本陣屋の遺構の全貌が明らかになる発掘調査を行うことである。

る。

III. 橋本陣屋跡について明らかにしなければならぬことと、その歴史的意義

① 誰が命令し「幕府」とかではなく、〇〇老中などの紋り込みが必要、誰が建てた(どこの藩が工事を行った)のか、どのような建物だったのか(後藤先生のその後の調査では、2階建ての建物であったという証言がある)。
② どのように使われたのか明らかにすること。楠葉台場・梶原台場との関連で、

③ 橋本陣屋設置から鳥羽伏見の戦いまでの、歴史の流れを再評価すること。
④ 保存の必要性和意義について地元・市民に広く伝えること。
以上である。



3 月 14 日講演会の様子

生活道路が 30 km 速度制限に

中村たかし

道路交通法の改正で令和 8 年 9 月 1 日から地域住民に利用される、セクターライン等のない「生活道路」の法定速度が、従来の 60 キロから 30 キロに

引き下げられます。

車と歩行者・自転車等が衝突した場合、時速 30 キロを超えると歩行者の死亡率が急激に上昇します。30 キロ以下であれば、事故の際でも死亡や重大な傷害に至る確率を低く抑えることができます。

また、地域住民にとって地域の安全性向上だけでなく、「安全で静かな環境」を守り、車の「抜け道」としての利用への抑止効果になります。このことは、「車の道」から「人の道」へと道路のあり方を見直す大きな転換点であり、地域住民にとって歓迎すべき改正であると思われれます。

生活道路における交通量と速度制限は、交通ルールの問題だけではなく、地域の安全・暮らしの質・街のあり方に直結します。

今回の 30 キロ制限は「歩行者優先」「人が主役の道路」という明確なメッセージになっていきます。交通の円滑化は幹線道路で、暮らしの安全は生活道路で守る。この役割分担こそが、持続可能な交通環境になります。

とりわけ、八幡市では、東高野道は他市から他市へ通り抜ける車両の抜け道として利用されており、高速の車両が多く、歩行者や自転車、シニアカー、車イスを利用する人にとっては大変危険な状況が続いています。また、歩道が整備されている部分と、そうでない部分とのまだら模様が顕著になっています。住民の日常生活及び歩行者利用を主とする生活道路的性格を有する区間が多いにもかかわらず、現在の交通環境では、道路沿いの商店や民家の衰退を招き、地域のにぎわいや、観光振興を阻害する大きな要因ともなっています。

今回の法改正は、こうした状況を改善し、「まちかどひなまつり」をはじめ、住民や観光客が安心して歩け、滞在できる道路へ転換する絶好の機会ではないでしょうか。
 京都府警や市役所の迅速な周知・啓蒙が望まれます。

**フロム・ロード&ストリート
VOL.56 2026.3.19**

**何か新しい気持ちか
湧きおこったのではないか**

伊藤代表の話。

昨年3月、寝ている最中に突然体がおかしくなり、困ってしまったけれど、清掃活動は続けた。代表にとって清掃活動は生命線である。

前を向いて歩くのは難しくなり、カートを引いて下を向いてソロソロりと歩くほかなかった。家の周りを歩く短い時間だったが、それでも大変だった。舞台・大谷川の清掃と中ノ山墓地の整備はやめた。

3カ月ほど繰り返していると、少し体力が上向きにはじめた。

1週間のローテーションで歩いていた「久保田」「駅前」「ファミレやわた」「川口」「松花堂」の各コースのうち、一番伝統のある久保田コースを短縮して挑戦。様子を見ながら各コースを順次試していく。一番長い松花堂コースの再開は、気持ち乗るのが難しく、1年後となった。

松花堂コースも短縮して歩いたが、驚いたことがある。

ひとつは、走上りのバス停脇につきも捨てられていたゴミがなかった

こと。週1回通るたびにビニール袋に入ったゴミが2つ、3つ捨てられてあり、多い時は7・8個になった。ゴミが捨てられていない代わりに、足場がコンクリートの八幡市と八幡警察署の「ゴミ投棄厳禁」の看板が置かれている。

看板が置かれた事情はまったくわからないけれど、ゴミの山ができて付近の住民が困って市役所に掛け合ったのではないかと推察する。

ふたつ目に驚いたこと。長田の公営住宅の近くの民家の前になるけれど、幅1メートル以上、高さ50センチぐらいのコンクリートやブロック、木材、プラスチック、一般ゴミの入り混じった山があった。代表はそのゴミを片付けようとしたが、住民から「やめてくれ」と止められた。以降、手出しができなくなったけれど、通るたびに、片付けたらいいのにと思っていた。

それが綺麗に跡形もなく片付けられていた。偶然、やめてくれと言われた住民とすれ違い、「見えなかったね」と穏やかに声をかけられた。代表は「体の調子が悪かったので」と答えた。

代表はとても感動したけれど、その気持ちを伝える場が生まれなかった。

住民の今までにない穏やかな言葉に、代表は何か新しい気持ち湧きおこったのではないかと、前向きに考えた。

大谷川清掃レポート

2026.3.27

チューリップ

チューリップはユリ科の植物で、原産地は西アジアです。西アジアのアフガニスタン、トルコなどでは「国花」とされています。栽培が盛んなオランダやベルギーでも「国花」です。

チューリップの名前は、インドの人やイスラム教徒が頭に巻く「ターバン」のトルコ語に由来するといわれます。昔、この花を見た神聖ローマ帝国の大使が、乗った馬の上から下を指さして、「これは何の花か」と尋ねたそうです。聞かれたトルコ人はこの時、花が飾りとしてターバンに差し込まれていましたが、頭に巻かれたターバンのことを聞かれたと勘違いして答えました。そのためこの名前が広まったとされています。

チューリップは、タネによる有性生殖ではなく、球根による無性生殖で増やすのが一般的です。球根で育てれば、親と同じ性質の個体が生まれます。同じ色の同じ形の花が咲くので管理しやすくなります。

花を咲かせることは、タネをつくり子孫を増やすことが目的です。チューリップも例外ではありません。タネから育てることができません。しかし、タネから栽培することは皆無と違ってよいでしょう。チューリップのタネを見るのは、めずらしいことなのです。

チューリップには、自家不和合性という性質があります。自分の花粉



このような理由で、球根で栽培する方法が採られています。

◆3月1日、第120回舞台・盛戸大谷川清掃は2名の参加で、土嚢袋換算で14袋回収しました。

◆3月22日、第204回山路大谷川清掃は6名の参加で、土嚢袋換算で120袋回収しました。

【第205回山路大谷川の清掃のご案内】

■日時：2026年4月26日(日)

午前8時半〜11時(雨天中止)

■集合：旧あずま屋

(コノミヤ裏八幡源氏垣外)

※会場設営にご協力いただける方は、集合時刻の30分〜1時間前に現地にお集りください。

※用意して頂く物：厚手の手袋。その他の必要な物は用意します。

【第122回舞台・盛戸大谷川の清掃のご案内】

■日時：2026年5月3日(日)

午前8時半〜11時(雨天中止)

■集合：大谷橋下流の休憩所

(ベンチあり)

※会場設営・用意して頂く物は右と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先：八幡市八幡高畑10・76

Tel 075(981)6505

携帯090・3710・4842

二つ目は、春に葉を出しても夏には枯れてしまい、光合成をおこなう時間が短く、球根の成長は長い年月が必要になります。

違う品種の花粉でタネができるのと、親と違った性質のチューリップが生まれます。品種改良したい場合は都合のよいことですが、商業目的には適しません。

一つ目は、タネで栽培すると、タネをまいてから花が咲くまでに長い年月がかかります。